

慢性疲労・発達障害への革新治療

—個別最適化された治療の実現



本間 良子

スクエアクリニック 院長



本間 龍介

スクエアクリニック 副院長

スクエアクリニックは、慢性疲労（副腎疲労）や発達障害など、一般の診療では対応が難しい症状に特化した診療を行っています。患者さん一人ひとりの背景に合わせた個別的なアプローチを大切に、体調改善と生活の質の向上を目指しています。また、近年ではアスリートや経営者の方々に向けたミトコンドリアサポートや代謝機能の調整、遺伝子を活用したパフォーマンス向上のサポートも行っています。私たちは、最新の科学的知見と20年にわたる実績をもとに、これまで多くの患者さんの健康を支えてきました。

当院の特徴と治療方針

スクエアクリニックは、米国抗加齢学会や米国自閉症児治療学会などで高濃度ビタミン補充療法やホルモン補充療法（BHRT）の専門ト

レーニングを受けた医師が在籍しています。私たちは、慢性的な体調不良や特定の疾患の根本原因を探り、効果的な治療を提供することを目指しています。特に以下の点に重点を置いています。

1. 個別性を重視した診療：遺伝子検査や詳細な体内環境の分析を行い、患者さんごとに最適な治療法を設計します。
2. 先端医療技術の活用：世界中の検査機関と連携し、最先端の診断技術を迅速に取り入れています。
3. 総合的なアプローチ：栄養、解毒、ホルモンバランス、免疫調整を組み合わせた治療で、身体全体の健康を支えます。

有害物質とその影響

21世紀に生まれた新生児の臍帯血からは、

200種類以上の有害物質が検出されると報告されています。その中には、50年以上前に使用禁止となったDDT（農薬）が含まれることもあります。当院では、以下のような有害物質の検査と対応を行っています。

- ・**重金属**：水銀、ヒ素、鉛、アルミニウムなど
- ・**生活毒素**：有機溶剤、農薬、殺虫剤、BPA（ビスフェノールA）
- ・**マイコトキシン**：真菌が産生する毒素で、ミトコンドリア障害や免疫異常を引き起こす可能性があります。

有害物質が神経系に与える影響は多岐にわたります。特に、以下の症状や障害が関連していることが多いです。

- ・**神経伝達物質のバランス異常**：重金属やマイコトキシンは、ドーパミンやセロトニンなどの神経伝達物質の生成や分解に影響を及ぼし、不安感、うつ、注意欠陥・多動性障害（ADHD）の症状を引き起こすことがあります。
- ・**神経炎症**：有害物質が免疫系を刺激し、脳内で慢性的な炎症反応を引き起こすことがあります。この炎症は、認知機能の低下や疲労感、さらには神経変性疾患のリスクを高める要因となります。
- ・**ミトコンドリア機能障害**：神経細胞はエネルギー消費が非常に高いため、ミトコンドリアの障害は集中力の低下や記憶力の低下を引き起こす可能性があります。

有害物質を体外に排出し、細胞レベルで健康を回復させるため、以下の3つの段階に分けた解毒プログラムを提案しています。

肝臓の解毒 (フェーズ1・フェーズ2のサポート)

肝臓は体内の主な解毒臓器であり、毒素を代謝し、体外に排出可能な形に変換します。当院では以下の方法で肝臓の解毒機能をサポートします。

- ・**栄養補充**：グルタチオン、N-アセチルシステイン（NAC）、ビタミンB群など用いて肝臓の酵素反応を促進。
- ・**毒素の排出促進**：キレート療法やハーブを用い、重金属などの毒素を体外に排出。

腎臓の解毒（排泄の最適化）

腎臓は解毒後の毒素を尿として排出する役割を担っています。

- ・**水分補給**：毎日十分な水分摂取を推奨し、腎臓のフィルター機能をサポート。
- ・**利尿効果のある食品やハーブ**
- ・**電解質バランスの調整**：食事やサプリメントでミネラルを補充し、腎臓への負担を軽減。

細胞の解毒 (ミトコンドリアと細胞膜の保護)

細胞レベルでの解毒は、ミトコンドリアの健康を守り、エネルギー生産を最適化するために重要です。以下の方法を組み合わせています。

- ・**ミトコンドリアサポート**：コエンザイムQ10、L-カルニチン、リポ酸などを用いてミトコンドリアの機能を向上。
- ・**細胞膜の修復**：必須脂肪酸（オメガ3、フォスファチジルコリン）を補充し、細胞膜の透過性を正常化。
- ・**抗酸化療法**：抗酸化物質で酸化ストレスを軽減。

遺伝子検査と治療

SNPs遺伝子検査（200遺伝子：変異部位5,000箇所測定）を導入したことで、治療の幅が大きく広がりました。遺伝子情報に基づいて神経伝達物質の調整や解毒機能を強化することで、以下のような個別対応が可能となりました。

- ・**HLA-DQ 変異**：小麦グルテンが統合失調症や双極性障害のリスクを高めることがあるため、グルテンフリー生活を推奨します。これにより、精神症状や神経炎症の改善が期待できます。
- ・**ABP1、HNMT 遺伝子の変異**：ヒスタミンを分解する酵素の働きが弱いと、ヒスタミンを多く含む食品（トマト、ナス、グルテン、カゼインなど）を控えることで、アレルギー症状やヒスタミン不耐性に関連する症状（頭痛、皮膚のかゆみ、鼻炎など）を改善することが可能です。
- ・**DAOA 遺伝子変異**：Dセリンを介し、脳内のグルタミン酸シグナルが高くなる傾向があり、創造性や高い集中力を発揮する一方で、ストレス時に脳をリラックスさせることが苦手です。このため、完全な禁酒・禁煙を強く推奨するのではなく、個別の状況に応じてアドバイスをを行います。また、グルタチオンの生成が弱い場合が多く、酸化ストレスを軽減するためのサプリメント（NACやリポ酸など）の活用を提案しています。
- ・**ミトコンドリア SNPs (MT-ND1 変異)**：ミトコンドリア DNA の特定の変異は、ATP 合成やエネルギー生産の効率低下に関連することがあります。この場合、エネルギー代謝を最適化するために、コエンザイム Q10 やカルニチンなどのサプリメントを用いるほか、抗酸化物質によるミトコンドリアの保護を提案します。

- ・**PON1 遺伝子変異**：パラオキシナーゼ1（PON1）は、有害な酸化ストレスや農薬（有機リン化合物）の分解に重要な酵素です。PON1 遺伝子に変異がある場合、解毒能力が低下し、動脈硬化や神経系へのダメージリスクが高まる可能性があります。このようなケースでは、抗酸化物質、コレステロール代謝の改善、ならびに環境毒素への曝露を減らす生活指導を行います。

特に発達障害のお子さんに関しては、遺伝子要因と環境要因の複合的な影響を慎重に評価し、それぞれに合った治療を提案しています。

長引くコロナ禍と新たな課題

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、医療分野に多大な影響を及ぼしました。特に、PCR 検査や抗体検査の技術革新により、診断精度が飛躍的に向上し、新たな治療法の開発も進展しています。しかし一方で、COVID-19 の後遺症（いわゆる「ロング COVID」）に関連する免疫系の問題や、ヒトヘルペスウイルス 6 型（HHV-6）感染症、ライム病など、治療が難しいケースの増加が報告されています。これらの背景から、慢性疲労や発達障害に悩む患者さんの増加が懸念されています。

COVID-19 と免疫系への影響

COVID-19 の急性期を乗り越えた後も、多くの患者が倦怠感、呼吸困難、認知機能の低下などの後遺症を経験しています。これらの症状は、免疫系の異常な反応や慢性的な炎症が関与していると考えられています。

- ・**ウイルス抗原の持続的存在**：体内にウイルスの抗原が残存することで、免疫系が継続的に刺激され、慢性的な炎症状態が維持さ

れる可能性があります。

- ・全身性または局所的な炎症反応：急性期の感染後も、全身または特定の組織で炎症が続くことが、後遺症の一因とされています。
- ・ヘルペスウイルスの再活性化：COVID-19感染により、エプスタイン・バーウイルス（EBV）などのヘルペスウイルスが再活性化し、免疫系に追加の負担をかけることがあります。
- ・腸内細菌叢の変化：腸内フローラのバランスが崩れることで、免疫応答や全身の炎症に影響を与える可能性があります。

これらの要因が複合的に作用し、COVID-19後遺症の発症や持続に寄与していると考えられています。

慢性ライム病

ライム病は、ダニを媒介とするボレリア菌による感染症で、適切な治療が行われないと慢性化し、多様な症状を引き起こします。特に、ボレリア菌が中枢神経系に侵入すると、「脳ライム病（神経ボレリア症）」と呼ばれる状態を引き起こし、以下のような症状が現れます。

- ・髄膜炎様症状：頭痛、首のこわばり、光や音に対する過敏症状など。

◆ 本間 良子（プロフィール） ◆

スクエアクリニック院長。米国抗加齢医学会フェロー。米国発達障害児バイオリジカル治療学会フェロー。聖マリアンナ医科大学医学部卒業後、同大学病院総合診療内科入局。副腎疲労の夫をサポートした経験を活かし、米国で学んだ最先端医療に基づく栄養指導もおこなう。

◆ 本間 龍介（プロフィール） ◆

スクエアクリニック副院長。米国抗加齢医学会フェロー。米国発達障害児バイオリジカル治療学会フェロー。医学博士。聖マリアンナ医科大学医学部卒業後、同大学院医学研究科修了。自身が原因不明の重度の疲労感に苦しんだことをきっかけに、アドレナル・ファティーグ（副腎疲労）の提唱者であるウィルソン博士に師事。帰国後、日本初の副腎疲労外来を開設。

- ・脳炎症状：視力や聴力の低下、めまい、記憶力や集中力の低下、精神的な不調など。
- ・末梢神経障害：手足のしびれや痛み、筋力低下、歩行困難など。

これらの症状は、慢性疲労や認知機能の低下と密接に関連しており、患者の生活の質を大きく損ないます。

COVID-19のパンデミックは、直接的な感染症状だけでなく、免疫系の長期的な影響や他の感染症との関連性を通じて、慢性疲労や神経障害のリスクを増大させています。これらの複雑な病態に対処するためには、免疫系の詳細な評価と、個別化された治療アプローチが求められます。

世界との連携と情報共有

技術の進化により、小規模なクリニックでも世界中の検査会社と迅速に連携できるようになりました。また、オンライン学習や情報交換を通じて、最先端の知見を常にアップデートし、診療に活かしています。開業当初は情報収集のために渡米する必要がありましたが、現在ではオンラインで多くの専門家とつながることができるため、患者さんに提供する治療の質がさらに向上しています。

BIO HACKING
未だ未知の世界を拓くための
遺伝子の理解

TSUYOSHI TAKASHIRO
高城 剛

自分の遺伝子を
読み解き、
サバイバル時代を
生き抜く。

Glutamato GABA conversion Bell Curve

Serotonin

Cynitrite

P2E1

ボケない人
がやっている
脳のシミを消す
生活習慣

アメリカ抗加齢医学会「副腎研究」からの大発表

高城剛氏
推薦!!

いつもの
食生活を
やめるだけ
で
認知機能低下は
止められた!

PANS/PANDAS
の正体

こだわりが
強すぎる
子どもたち

本間良子 本間龍介

発達障害とは異なる
新たな問題とは?

70歳
からが
分かれ道!

老化
を
止める
食べ方
100

抗加齢専門医が教える

本間良子 本間龍介

● クリニック情報

スクエアクリニック

川崎市幸区堀川町 580
ソリッドスクエア東館 1F
電話番号：044-511-4191
HP：https://www.squareclinic.net/

診療日：自費診療は完全予約制